

3.まとめ

3.1 空間 γ 線線量率

(1) 空間 γ 線線量率について、最大値、最小値、平均値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動原因について解析を行った。その結果、平成16年度調査における空間 γ 線線量率の変動範囲は、すべての測定所において、過去2年間の調査結果と同程度であった。

(2) ほとんどの変動原因は、降雨や降雪による影響であると推察され、人工放射性核種の影響は見られなかった。

筑波測定所において、空間 γ 線線量率の上昇と通過率の低下が見られたが、原因は特定できなかった。

3.2 大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度

(1) 大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度及び全 β /全 α 放射能濃度比の最大値、最小値、平均値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動要因について解析を行った。その結果、平成16年調査における大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度の変動範囲は、過去2年間の調査結果と同程度であった。

(2) 自動測定装置の点検時の効率変更、ろ紙装着の不備等の人為的な影響を除いて、変動原因は気象要件によるものと考えられ、人工放射性核種の影響は認められなかった。